

ゆうあい

あなたがいる、わたし、がある。

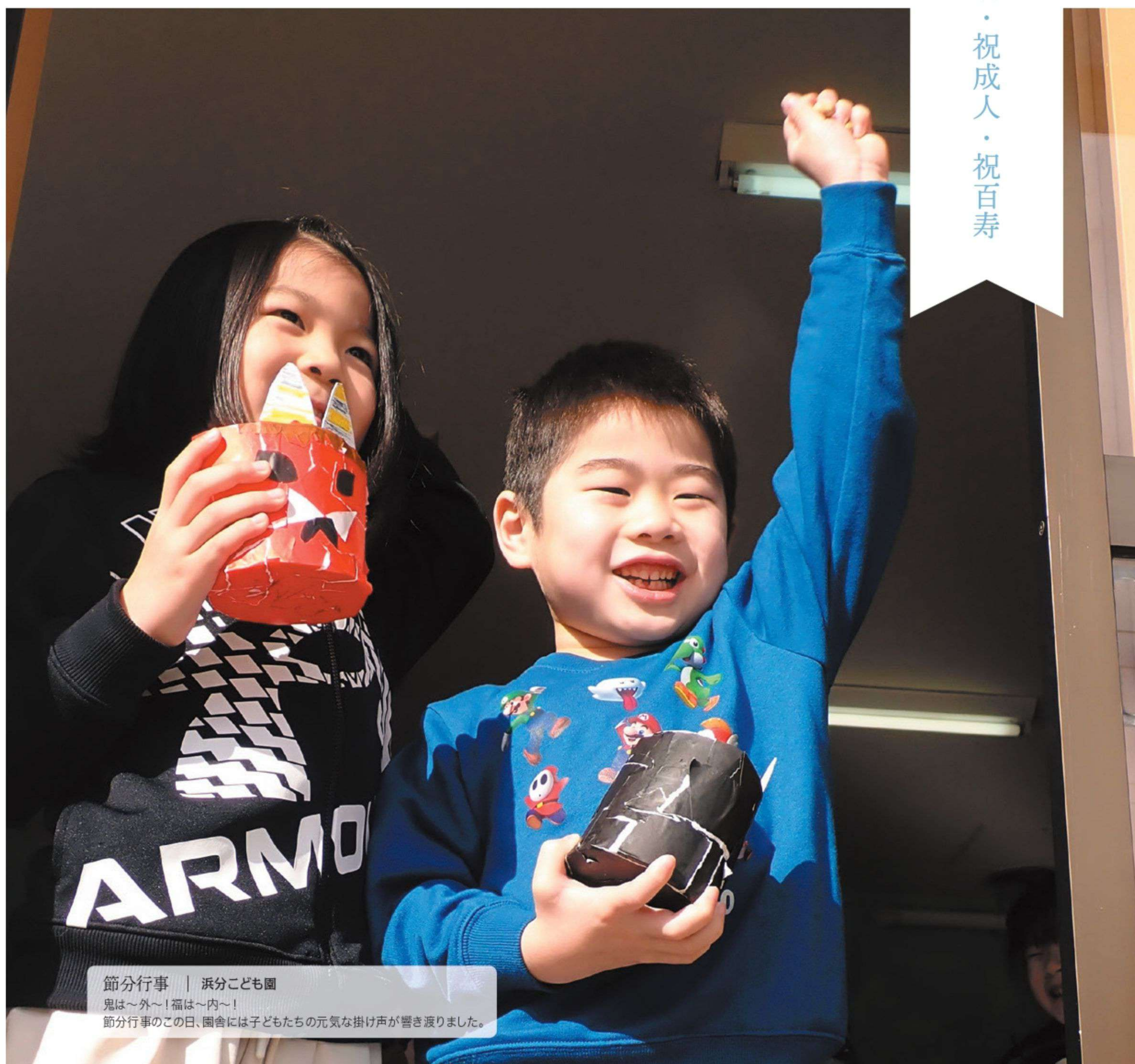
FEBRUARY 2025

2

vol.577

特集

祝還暦・祝成人・祝百寿



節分行事 | 浜分こども園
鬼は～外～! 福は～内～!
節分行事のこの日、園舎には子どもたちの元気な掛け声が響き渡りました。



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



地域共生社会の実現に向けた 相談機関の役割について考える

国の社会保障制度は、地域の相互扶助や家族同士の助け合いなどの機能が前提として整備されてきました。しかし、近年の急激な社会構造や地域社会の変容を受け、従来の相談体制では対応が困難なことが増えています。制度の狭間にあるケース、相談に自ら行くことが出来ずに孤立するケースなどです。地域共生社会の実現に向けて、相談機関やゆうあいがこれから期待される役割について事例などを通して考えてみました。

8050問題の相談ケースから

相談機関には、日々地域で起きている様々な問題や課題などが「相談」として寄せられます。まさしく地域の課題を映し出す鏡ともいえる場所といえるかもしれません。最近では、障がいのあるご本人とご家族の事情等を背景とした8050問題のケースが増えています。ご本人を在宅でひっそりと支えてきた高齢の親御さんに緊急事態が起きた際、年齢を重ねたご本人への福祉ニーズが初めて顕在化するといえるものです。個別的に、また強固に結ばれた親子関係のなかで培われたある種、特異な社会性があるゆえ、その後の周囲からの働きかけへの受容や、新たな対人関係の構築は簡単なことではありません。また、ご本人に関する情報が非常に少ないため、今までのように暮らしてきたか、何が出来て、何が出来ないのか。楽しみや好きなことは何か、一からのアセスメントが必要です。その後、長い時間をかけて何らかの福祉サービスに繋げていくこととなります。住み慣れた環境での暮らしを継続してほしいのですが、難しくなる場合も多いです。一方で、同じように親御さんに緊急事態があつても、住み慣れた環境で暮らし続けることが可能となったケースもあります。その方は、軽度の知的障がいがありました。両親を失い、失業して引きこもり状態になりはじめたころ、それを心配した遠くに住むご親戚から相談機関に相談が寄せられました。相談員がその方のご自宅へ訪問を繰り返すうち、ご近所の方などが出来事を知ることとなりました。以前から心配して気にされていた

そうです。その後、その方とご近所の方との交流が数年ぶりに生まれました。ご近所のナチュラルサポートや福祉サービスを受けながら、その方は、現在もご自宅で暮らし、障がい者雇用先で立派に働くことができています。

地域や隣近所との関係性のなかで

様々な相談を通じて感じるものの一つは、地域のつながりの希薄化です。それは自身自身の生活を顧みても明らかです。共働きしながらの子育てや家事に日々追われるなか、ご近所の方との会話は一週間に片手で数える程度です。私が福祉の仕事をするようになった原点は、きみ子さんという人との出会いです。大学生のころ、全盲で知的障がいのある中学生のきみ子さんの家庭教師をしていました。ある日、自宅に訪問すると「きみちゃんは、隣の家に遊びに行っているの」とお母さま。その家を訪れ、きみ子さんに声をかけました。いつも私と手をつないで歩ききみさんが奥から一人で出てきて、「はい」と元気に答えてスタスタと自宅を歩くかのように玄関までやって来たのです。「邪魔しました！」と慣れた調子で声をかけて、きみ子さんは自宅に戻っていききました。私は、あつげにとられました。何気ない一コマですが、今でも頭から離れない記憶となっています。全盲で知的障がいのあるきみ子さんとご隣さんとの関係は一朝一夕のものではなかったことが今だと分かります。

新しい理念を掲げたゆうあいのこれから

私たちゆうあいは、保育園に通う発達の違いがある子どもと共に成長しようという想いからスタートした法人です。様々な発育の凸凹や自閉症などの特徴など、一人ひとりの違いを大切に認め、互いに受け入れ合おうとしてきました。ともに育ちあう環境を大切に、ライフステージやその人に合わせた支援を標榜してきました。その積み重ねがあつて、いまの多様な事業を擁するゆうあいの姿になっていったのです。今年度、ゆうあいは、新しい理念を掲げました。「あなたが安心して暮らせる社会を創る」イノベーションな街を実現する。暮らしの中にある安心とは、どんなことだろう。目が見えなくても隣の家と難なく往来することのできたきみ子さんは、きつと安心して暮らしていたに違いない。障がいを理解することに留まるのではなく存在をありのままに認め、その人のことを知り必要な援助をできる人が補うことで、そこにお互いを思い合う気持ちが生まれ安心して暮らすということにつながるような気がしています。そんな場面が、地域の中にたくさん広がれば、もしかすると福祉サービスは必要なくなるのかもしれない。夢物語かもしれませんが、人は一人では生きていけないものですし、私自身も支援が必要になるときがきつと来ることでしょう。できないことを知ってもらい、お互いに助け合うためのノウハウを、ゆうあいはきつと知っています。長い歴史で紡いで築きあげてきた財産の共有や拡がりやを、いま地域で必要とする方が待っているように感じています。

ばすてる 所長 小谷素美子



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp